

# I 研究の概要

## 1 研究主題

### 研究主題

自分の考えを豊かな表現で伝え、互いに学びを深め合える児童の育成  
～国語科「話すこと・聞くこと」の指導を通して～

## 2 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標の重点を「よく考える子ども」に置いている。目標にある「よく考える子ども」を育てるには、子供たちの「思考力・判断力・表現力」を育てていくことが大切になると考える。また、学力に関する各種の調査結果を見ても、課題を解決するとき、知識及び技能を活用して考える力や、考えたことを表現する力は、多くの子供たちの共通の課題となっている。

本校の子供たちの実態から、各学年の子供たちが共通して、自分の考えや思いを相手に「伝える力」が不足していることが見えてきた。「伝える力」は、話し合ったり文章を書いたりして、自分の考えを分かりやすく伝えるために必要不可欠となる。その力は、国語科での「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導を中心として育まれていく。国語科の「話すこと・聞くこと」の指導では、相手や目的に応じて話を構成し、考えをまとめる力を伸ばすことができる。また「書くこと」の指導では、自分の考えが明確になるように文章を構成する力を伸ばしていくことができる。他の教科の指導でも、目的意識をもちながら表現方法を工夫し、伝える力を伸ばしていくことができるが、まずは、伝え合える力を高めることを目標としている国語科の「話すこと・聞くこと」を研究していくことが、児童の伝える力を効果的に伸ばしていくことができると考えた。また、国語科において、どの学年でどの程度「話すこと・聞くこと」について指導しているのか、系統性が見えてくると、他の教科や領域での指導にも生かしていくことができると考えた。

上記のことから、研究推進委員会として今年度の研究の方向性を「伝える力」、国語科の「話すこと・聞くこと」を中心に研究を進めることとした。

そして、今年度の伸ばしていきたい「伝える力」を、研究推進委員会と各分化会の意見交換から、「一人一人が自分の考えをもち、それを豊かな表現で相手に伝え、互いに学びを深め合えること。」と捉えた。

「一人一人が自分の考えをもち」とは、課題に対して、自分の思ったことや感じたことを、一人一人が相手に伝えたいという意欲と自分の考えをもつことである。

「豊かな表現で相手に伝え」とは、豊富な語彙から自分の考えに合った言葉を選び組み合わせ、書くことや話すことなどで、相手に自分の考えを伝えることである。

「互いに学びを深める」とは、伝える側と聞く側とが一体となって、互いに考えを伝え合い、多様な考えを理解することである。

以上のように「伝える力」を捉えたことから、国語科「話すこと・聞くこと」の指導を通して、「自分の考えを豊かな表現で伝え、互いに学びを深め合える児童の育成」を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

## 3 研究主題に迫るための手だて

研究主題の具現化に向けて、今年度は、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で研究を進めていくこととした。また、学習活動等を行うにあたっては、取り組むべき課題である「伝える力」の育成にかかわって、以下のような手だてを講じることとした。

(1) 相手に伝える意欲を高めるために・・・題材や伝える相手、目的や伝え方、聞き方などの工夫

伝える意欲を高めるには、伝える目的が児童の実態に合っており、伝えたいという意欲がもてること、伝えたい相手がいることが大切である。よって、児童が目的意識、相手意識をもつことができる手だてを考えていく。また、よい聞き手がいることも話し手の意欲につながることから、望ましい聞き方についても手だての一つとして考え、指導していく。

(2) 自分の考えを豊かに表現するために・・・型やモデル、具体例などを示す。

伝えるための話型や、話し合いの進め方などを示すことが、自分の考えを分かりやすく伝えるための手だてとなると考える。また、教師のよいモデルや具体的な事例を示すことも、児童がどのように考えを伝えればよいかを明確にする手だてとなると考える。

この手だては、児童の伝える力を伸ばすのはもちろん、学年の段階に応じて指導している内容を知ることができ、指導者も「話すこと・聞くこと」の学習のつながり（系統性）を知ることができる。

(3) 各学年の学習内容、児童の実態に合わせた「伝える力」を伸ばす工夫や手だて

各学年のねらいや学習内容、児童の実態に合わせて「伝える力」を伸ばす工夫や手だてを考えていく。考えられた工夫や手だてを講じるのが「伝える力」を伸ばすこと、また、「伝える力」を伸ばす方法を多様にし、指導の幅を広げることができると思う。

(4) 日常的に「伝える力」を育む工夫

表現の仕方や語彙力を効果的に育てていくには、授業だけでなく、日常的に力を伸ばす機会が必要となる。よって、日常的な取組として、表し方や言葉を知るための「読書活動の充実」や「朝学習の効果的な取組」、「言語環境の整備」について行っていく。

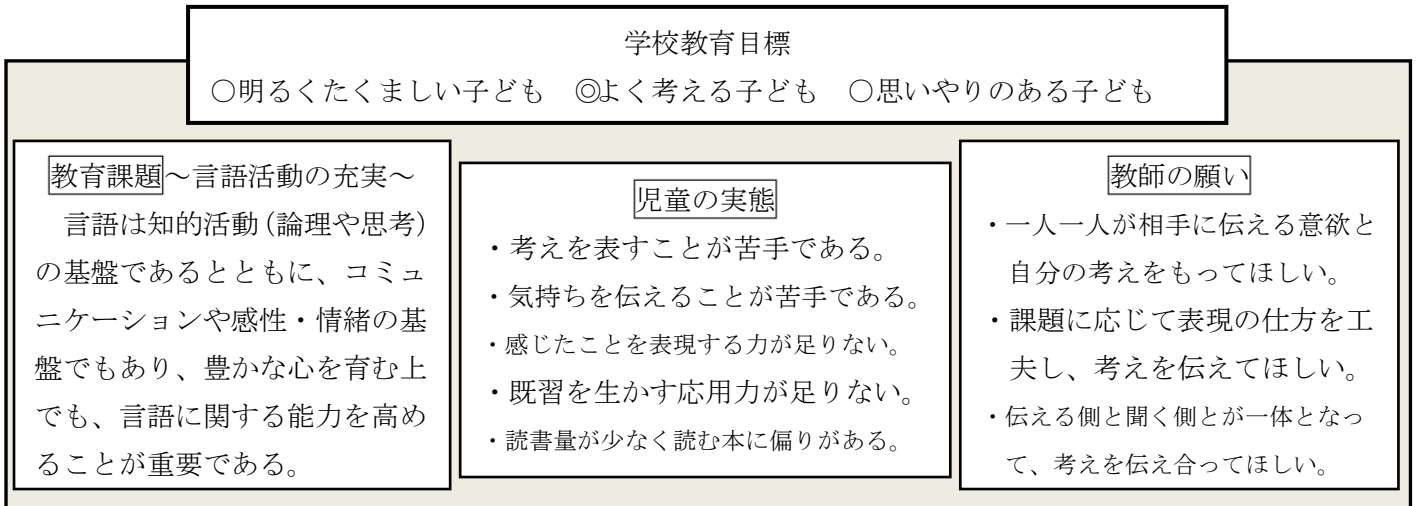
「読書活動の充実」については、図書館の利用や、図書委員会との連携を通じて、読書の量と質の向上を図る取組を行い、表現の仕方や語彙力を伸ばしていく。

「朝学習の効果的な取組」については、週3日ある朝学習の時間で、1回を朝読書の時間として行いながら、他の時間の活用の仕方を考えていく。

「言語環境の整備」については、話し方や聞き方の基本となること、話し合い活動の話型、言葉を知ることができる表などを用意し、表現の仕方や語彙力を伸ばしていく。

以上のように「相手に伝える意欲を高める手だて」「自分の考えを豊かに表現する手だて」「学習内容、児童の実態に合わせた手だて」「日常的に「伝える力」を育む工夫」を柱として校内研究を行い、研究主題にある「自分の考えを豊かな表現で伝え、互いに学びを深め合える児童の育成」を進めていく。

## 4 研究構想図



### 研究主題

自分の考えを豊かな表現で伝え、互いに学びを深め合える児童の育成  
 ～国語科「話すこと・聞くこと」の指導を通して～

### 研究主題を踏まえた分科会の目指す児童像

- 低学年 「 伝えたいことを、相手に順序立てて話し、分かり合える児童 」
- 中学年 「 伝える意欲をもち、互いに分かりやすく話し合える児童 」
- 高学年 「 互いの立場や意図をはっきりさせながら、適切に話したり聞いたりする児童 」

### 具体的な手だてと工夫

| 低学年                               | 中学年                                 | 高学年                               |
|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| <b>1. 相手に伝える意欲を高めるために</b>         |                                     |                                   |
| 1・インタビューのモデル<br>2・学校であつたらいいな      | 3・アンケートを元にした資料<br>4・児童の生活に身近な話題     | 5・友達名鑑を作る活動<br>6・学年で、国語の時間の統一     |
| <b>2. 自分の考えを豊かに表現するために</b>        |                                     |                                   |
| 1・イメージマップの活用<br>2・説明することの事前準備     | 3・考えを整理するシート活用<br>4・話し方の例の活用(音声と文章) | 5・話し合いのモデル提示<br>6・グループ担当教員の配置     |
| <b>3. 学習や実態に応じて、「伝える力」を伸ばすために</b> |                                     |                                   |
| 1・答えをメモする色別カード<br>2・話し合いでシートの活用   | 3・伝え方上達シートの活用<br>4・話し手と観察者での学習      | 5・よいインタビューの掲示<br>6・主張と根拠の論理的な組み立て |

### 日常的に「伝える力」を伸ばす取組

- |                                                   |
|---------------------------------------------------|
| <b>【読書活動の充実】</b> ・読書カード ・読み聞かせ ・読書旬間 ・朝読書         |
| <b>【言語環境、掲示】</b> ・話し方、聞き方掲示 ・話型の掲示 ・月の掲示 ・言葉のたから箱 |
| <b>【朝学習の充実】</b> ・「話す・聞くスキル」の活用 ・国語辞典の活用 ・漢字の学習    |